

やまなみ物語

こ・ころぼっくる

絵・やまなみ工房の皆さん

文・やましたまさと

この物語は今から 20 年前に作ったお話です。
お読みくだされば幸いです。





こ・ころぼっくる
きれいな目をした 10 人の妖精

むかしむかし、むかしと言ってもほんの 10 年ほど前のおはなし・・・
大きな大きな地球の上に小さな町があり、その小さな町に
小さなおうちがあり、その小さなおうちにきれいな目をした
10 人の妖精がいました。

妖精の名前は・・・ころぼっくる
ころぼっくるは不思議な妖精です・・・
なぜ不思議かってゆくと・・・
心がきれいでやさしい人にしか見えません。

ころぼっくるは不思議な妖精です。
何を聞いても同じ返事をします。空をずっと眺めていることがあります。
ゆっくりゆっくり歩きます。
人に秘密できゅうに笑ったり、怒ったり、
泣いたりもします・・・



ころぼっくるはとても明るくてやさしい妖精です。
不思議に思うのは、本当のころぼっくるが見えていないからです。
ころぼっくるは人をとても大切にします。
ころぼっくるはいじわるしたり、嘘をついたり、ぶったりしません。
ころぼっくるは、国語や算数が苦手です。
お話するのも苦手なころぼっくるもいます…

でも、どうってことはありません。
ころぼっくるは粘土したり、絵を描いたり、歌ったり、踊ったりするのがとても好きです。
好きなことをしているころぼっくるは、とても輝いています。



ある日、困った事が起こりました。
ころぼっくるはびっくりしました。
なかよくなろうとがんばりました。

でも…

それは、
ころぼっくるの姿が見えているのに、ころぼっくるの心が見えない
「しなさい怪獣」が突然やって来たのです。
「しなさい怪獣」は、ころぼっくるの本当の心を知りません。
「しなさい怪獣」は、ころぼっくるを立派なころぼっくるにしたいみたいです。

ころぼっくるはちっとも立派になんかなりたくないのに…
いえ…とっくに立派なのに…



「しなさい怪獣」は、一生懸命です。
ころぼっくるがないところで、どうしたらいいか、
「しなさい怪獣」どうし相談します。

しなさい怪獣は、
あれしなさい、これしなさい、こうしなさい、座りなさい、やめなさい、食べなさい、
始めなさい、しゃべりなさい、黙りなさい…
なさい、なさい、なさい、なさい、なさい……
ころぼっくるは、とうとう両方の耳を押さえてしまいました。

ころぼっくるは、それでもがんばってがんばって、いっぱい「しなさい」をしました。
それを見ている「しなさい怪獣」はうれしそう。
そして、がんばってがんばって…がんばって…
でも…疲れてしまいました。

ころぼっくるは、とうとう悲しくなりました。
きれいな目からいっぱい涙がこぼれました。
いっぱい涙がこぼれて、いっぱい涙はどんどんたまって、あたり一面水浸し…
「しなさい怪獣」はびっくりして大慌て。
でもどうしていいか分かりません。



ふいてもふいても、涙は溢れるばかり…
いつの間にか、「しなさい怪獣」は、ころぼっくるの涙でびしょ濡れです。
こまった、こまった「しなさい怪獣」…
しまいには、一緒に泣きだし、大きな声で「ごめん…ごめん…」と叫びました。

するとどうでしょう…
不思議な事に、「しなさい怪獣」のつりあがった眉毛が下がり、
ゆかいな顔の「してもいいよ怪獣」になったのです。

きつところぼっくるの涙が、しなさい怪獣の心を洗い、優しい気持ちになったんだね。



ころぼっくるは大喜び。
はじけるように元気になって
いろんなところへ行きました…

もちろん、「してもいいよ怪獣」と一緒にです。



春の日には、お花畑に行きました。
いろんなお花や、虫たちと、友達になりました。





夏の日には、川や海へ行きました…

秋の日には山へ行きました。

いろんな動物、いろんなおいしい物を
いっぱい見つけました。





冬の日には、街に出かけました。

春、夏、秋、冬… いろんな所に行って、いろんなことをいっぱいしました。
初めて出会ったものもたくさんありました。

ころぼっくるは、うれしくて、うれしくて、とても輝きました。

あっちに行ってこっちに行って 輝いて…
するところぼっくるが見える人…そう、本当のころぼっくるが見える人が、
どんどん増えていっぱいになりました。

友達がいっぱいできたころぼっくるは大喜び。
うれしそうに来る日も、また来る日も楽しそう。

毎日毎日キラキラピカピカ。
そして大好きな粘土や絵描きを好きなだけ自由にがんばりました。

ほら、こんなの見た事あるでしょ…こんなの一緒に見たでしょ…



ころぼっくるは、大切なことをたくさん教えてくれます…
がんばることや友達を大切にすること
やさしい気持ち…そして…

生きること。

ころぼっくるは今日もあっちに行ったり、
こっちに行ったり…
粘土したり、絵を描いたり…

大きな大きな地球の上の小さな町の
小さな小さなおうちで
きれいなきれいな目をした 10 人の妖精。

その妖精はころぼっくる
小さな小さな妖精たち…
大きな大きな地球より
大きな大きないい心をもった ころぼっくる
その心が地球とみんなを包みます…

こ・ころぼっくる



ここで言う「ころぼっくる」とは、
滋賀県にある障害者多機能型事業所「やまなみ工房」にある
一つのグループのことを言います。
僕が彼らと過ごすようになって 30 年が過ぎようとしています。
今思えばなんと失礼なことだったでしょう。
僕ははじめ、彼らに何かをしてあげる、教えてあげるのだと勘違いしていたのです。
ある日大きな間違いに気付きました。彼らに教わったのです。
今のやまなみ工房がやまなみ工房であるのは、彼らのおかげです。
やまなみ工房には現在 78 名の方がいます。
僕は彼らから多くの事を学びました。
それは人として大切な事ばかり。
今、僕は誰よりも彼らを尊敬しています。
そして一緒にいたいと思っています。

笑って、悩んで、頑張って…
彼らにも必要とされる自分でいたいと思っています。

彼らについて確信しました。

ありのままでいいんだ。
大好きな事、したい事、ゆっくりであっても、うまくいなくっても、
自分らしく生きよう。

土をこね、色を付け、歌い、歩き、泣き、笑い…
無駄な事など 1 つもないのだから。

ただ自分らしく…自分の歩幅で…

山下完和

